

尹 相軫

韓国出身

日本体育大学 体育科学研究科 博士課程

現代の重宝

現代はスマホとネットワークという画期的な発明品のおかげで、さらに早く、さらに遠くまで動いている。約 10 年前の Apple 社の iPhone がここまで人の生き方を変えと思っていた人は、そんなに多くはないだろう。

その当時、オーストリアと日本の遠距離恋愛をしていた自分は、彼女と連絡をしたくても時差でタイミングが合わず、しかもカメラ付きのパソコンでないと顔すら見られない、場所の限界がある時代に住んでいた。また、日によってはインターネットの繋がりが悪い日には、イライラして不機嫌になったり、寂しい気分になったりした時もあった。今思うのは、もしその時、スマートフォンがすでに開発されていたら、会いたい時、声が聞きたい時、すぐ連絡が取れたら、きっと自分はすでに結婚していて、子供も居ると思う。

それほど、人間関係において自分が会いたい時、話したい時に会って顔を見ながら話すことは大事だと思う。今は世界のどこに居ても(場所によってはまだインターネットができないこともあるが)ネットさえあればいつでも、しかも無料で会える、話せる時代なのだ。

コロナウイルスが広まり、世界が苦しんでいる今の時代に思うのは、もしインターネットやスマートフォンが現代に開発されていなかったら、人類はこれほど素早く的確に世界の状況を把握し、タイミングを合わせた態勢を取ることは出来なかったと思う。今の時代だからこそ、ここまでコロナウイルスと戦えるんだと。

現代の技術でなかったら、中世ヨーロッパで人口の 30~50%の命を奪ったペスト並みの事

態が起きたかもしれない。今の時点から見ると、中世時代に、ペストよりもっと大きい問題だったのは、人々の底知れない不安と恐怖だったと思う。どうしたらウイルスにかかってしまうのか、その原因すら把握出来ず、ただただウイルスにかからないように祈ることしか出来なかったその時代と今の時代の大きな違いは、科学の進歩から生まれる素早い情報力にあると思う。コロナがどこで発生し、どのように広まり、ワクチンの完成度は何%なのかなど、生放送のように把握できる。だからこそ、人類はコロナ事態が起きても、すぐパニックから立ち直り、少ない不安と、さらに少ない恐怖感を持って今を凌いでいるのだろう。

ドイツとオーストリアでは、誰かがくしゃみをする、gesundheit(体をお大事に)と言う。これは恐らく、中世ヨーロッパのペストのときに産まれた言葉で、現代にもその言葉と文化が残る、たとえ知らない人でもくしゃみしたら必ず言ってくれる。

我々は否応なく、いわば“コロナ世代”に生きている。毎日の自宅生活は苦しいが、今の時期に産まれる新しい文化と発明は、また人類を豊かにする力になるだろう。起きてしまったことはしょうがない。今の時期をこのまましんどく乗り越えて、もう二度とこんな事態が起らないよう、世界中の人が額を合わせて、協力する必要がある。